

第2弾

ゲノム操作食品学習会



ゲノム操作食品の支配者たち

とき：2018年**3月23日**（金）13:30～16:00

ところ：飯田橋セントラルプラザ 学習室A（16階）

JR・地下鉄「飯田橋駅」1分

遺伝子組み換え食品は、モンサント社などバイオメジャーと呼ばれる多国籍企業の種子支配をもたらしました。その支配を可能にしたのが特許でした。しかも単なる特許ではなく、生命の特許です。通常、特許は「工業製品の発明品」に対する権利で、生命は特許になじまないという考え方が一般的でした。それを覆したのが、米国政府であり、多国籍企業です。彼らは特許を武器に他社の参入を妨害し、種苗販売会社や農民を支配しています。

遺伝子組み換えからゲノム編集、RNA 干渉法へと技術が進んでいます。最先端の科学技術を応用したゲノム操作食品をめぐるには、激しい特許権争いが演じられています。そのような中で、生命特許はどうなっているのか、どのような企業がかかわっているのか、またどのような争いが起こっているのか、マスコミ等が取り上げない事実にとどまらずに迫ります。

- 講師 **マッカーティン・ポールさん**（生命特許はいらない！キャンペーン主宰）
村上茂樹さん（DNA 問題研究会）
天笠啓祐さん（遺伝子組み換え食品はいらない！キャンペーン代表）

資料代：500円

主催：NPO 法人日本消費者連盟／遺伝子組み換え食品はいらない！キャンペーン

【問合せ】日消連 ☎03-5155-4756/fax:03-5155-4767/email:office.j@nishoren.org

◆日本消費者連盟

1969年創立の消費者団体。「すこやかないのちを未来につなぐ」をモットーに、企業や国家の利益よりも人のいのちや健康を優先する世の中に変えたいと活動している。機関誌『消費者リポート』を発行

◆遺伝子組み換え食品はいらない！キャンペーン

遺伝子組み換え(GM)食品の輸入が認められた1996年に生産者や消費者が集まって設立。GM 食品を「食べない、売らない、作らない」の理念のもと、GM 食品のない世界を目指して活動している